

Title	古代傳承研究(肥後和男著, 河出書房發行)
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.17, No.3 (1939. 4) ,p.175(515)- 175(515)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390400-0175

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の早世は悲しみてなほ餘りある。(一九三九、二月)(村田武雄)

古代傳承研究

(肥後和男著
河出書房發行)

本書はさきに『日本神話研究』によつてわが神話學界に多くの貢獻をされた肥後氏の近業であつて、前書と姉妹篇をなすものである。たゞ前書が個々の研究の集録であるに對し、本書はわが神話において重要な地位を占めるスサノヲノミコトに關する一貫した研究であつて、まづ序説において研究態度についてのべ、ついで素戔嗚尊研究からその名義、その誕生、天眞名井に於ける誓約、素戔嗚尊の荒暴、高天原追放、八岐の大蛇、劍、素戔嗚尊の結婚、朝鮮との關係、大國主命に對する素戔嗚尊、後語の諸篇に分ち、この物語の重要な問題をほゞ究めつくし、いたるところ示唆にとんだ見解を提示して讀者を啓蒙するところの多いのは、まことによることばしいことである。著者の研究態度が神話と歴史との關係を究明することと、神話それ自身の歴史的發達を追尋することであるとされたのは、もちろん正しい態度として肯定されねばならない。たゞ評者は從來の多くの神話研究に對してその方法論上若干の疑問を有するのであつて、それは神話の原初的意義を究明する結果として、その源流にさかのぼり、各要素に分析還元するのは正しい方法ではあるけれども、しかし神話は還元された要素のみならず、それを統一綜合した全體としての形式においても意義を有するのではなからうか、もしさうであるとすれば、還元分析する以外に、更に全體としての意義を尋ねなければならぬ

書評

のではなからうか、また要素に還元してその原初的意義を究めるに當つて、今日の學者はあまり想像をたくましくして、過度の意義を附する弊がないであらうか、即ち原始人や古代人の意識以上に解釋しすぎる場合があるのでなからうか、また古神話の研究に民族學が利用されるのは最近の新しき傾向としてよることばしいことであるが、しかしこの際参照さるべき民間の傳承そのものの歴史がまづ考慮される必要はなからうか、今日行はれてゐる民間傳承がことごとく神話よりも古い起原を有し、原初的意義を有するとばかりはきめられないのではなからうか、或場合において中央において神話が固定化した後、それが地方に傳播し、或は派生したり、附會したりすることも考へられるのであるから民間傳承そのものの歴史を十分論證する必要はなからうかといふのである。かういふ疑問は本書においては比較的稀少のやうではあるものの、しかもなほ全く絶無とは言へない憾みがある。しかしこれは偏に評者の不明の致すところであらう。(本文三六八頁、定價三圓五〇錢)(松本芳夫)

大化改新の研究

(坂本太郎著
至文堂發行)

大化改新に關するまともな研究が今まで殆んど見られなかつたが、今回坂本氏が之を公にされた事は學會の爲めに喜ぶべき事である。著者はすでに多くの著書もあり、且つ此研究は學位請求の論文であり充分その價値を有するとして各方面に於てそのすぐれた研究を賞讃されてゐるのであつて、此處に再び本書への讃辭

(三五)

一七五